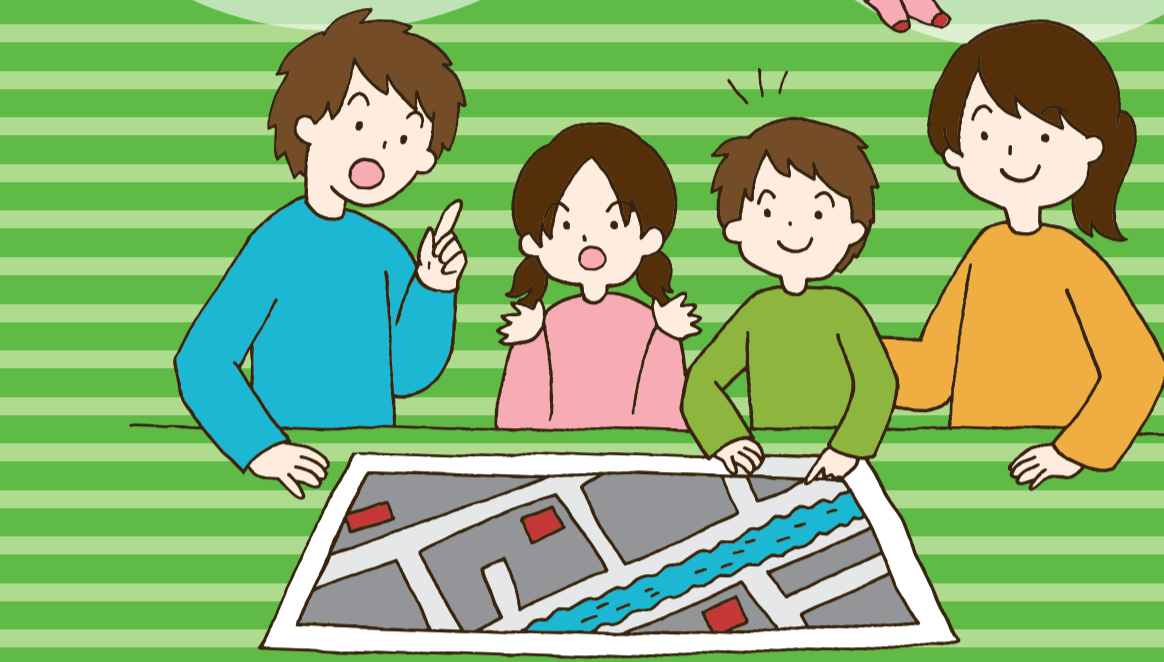
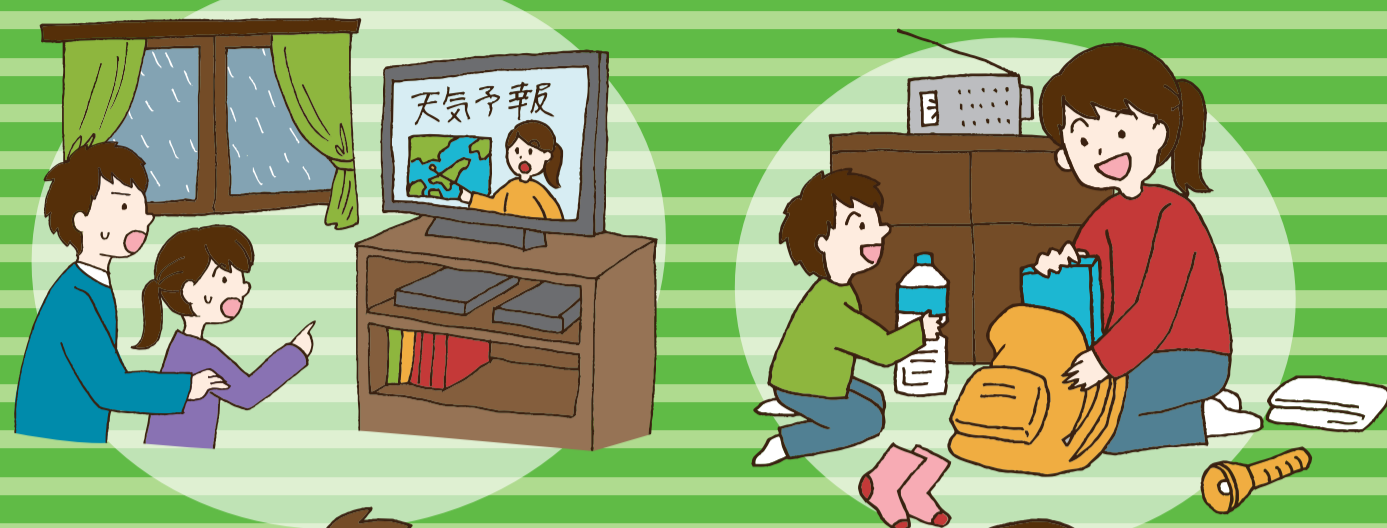


まつやま 洪水ハザードマップ

立岩川版



意識と準備が命を守る!

松山市

わが家の防災メモ

ハザードマップを使ってわが家の防災メモを完成させましょう! 地図を確認して、該当するところにチェックを記入しましょう。

自宅の災害リスク

浸水深 浸水無し 0.5m未満 0.5~3.0m 3.0~5.0m 5.0~10.0m

家屋倒壊等氾濫想定区域 氾濫流の想定区域内 河岸浸食の想定区域内 想定区域外

浸水継続時間 12時間未満 12時間以上1日未満 1日以上3日未満

避難の方法 このハザードマップを参考に、避難の方法を確認しましょう。

避難の方法 屋内待機 垂直避難(____階に避難) 立ち退き避難

避難場所 自宅から避難場所までの経路や時間を実際に歩いて確認しましょう。

避難場所 _____ 自宅から避難場所までの時間 _____

[メモ] 避難時の持ち出し品などについて、記入しておきましょう。

非常持ち出し品チェックリスト 下記はあくまでも一例です。各家庭の事情に合わせたものを用意しましょう。

貴重品 現金 印鑑 健康保険証・預金通帳(コピー可)

水・食料 飲料水 携行食・非常食(ビスケット・缶詰など)

医療・衛生用品 服用している薬 救急医療品 歯ブラシ 腔ケア用品 マスク 消毒液

避難用品 ヘルメット・防災ずきん 懐中電灯 スリッパ 軍手 ホイッスル

道具類 携帯電話・充電器 携帯ラジオ 電池 時計 ロープ

衣類 上着(防寒着)・下着・靴下 雨具(レインコート)

生活用品 ウエットティッシュ・ティッシュ タオル ゴミ袋・ポリ袋 レジャーシート

家族の名前 _____ 連絡先 _____

緊急連絡先 _____ 電話番号 _____

いざというときの連絡先 松山市内の市外局番は「089」です。

消防(火災・救急・救助) (市外局番ナシ) **119**

警察(事件・事故) (市外局番ナシ) **110**

松山市消防局 **926-9200**

松山市災害対策本部(設置時) **987-7000**

火災 925-6622 救急病院 925-6633

まつやま 立岩川版 松山市 総合政策部 防災・危機管理課
 〒790-8571 愛媛県松山市二番町2丁目2-2
 TEL.089-948-6793 FAX.089-934-1813
 https://www.city.matsuyama.ehime.jp/

浸水の深さを確認

あなたのご自宅は浸水何m?

5.0~10.0m の浸水

- 2階の屋根以上が浸水
- 水流が強い場合には、木造住宅が倒壊・流出する危険がある

3.0~5.0m の浸水

- 2階の屋根まで浸水
- 水流が強い場合には、木造住宅が倒壊・流出する危険がある

0.5~3.0m の浸水

- 2階の床下まで浸水
- 1階部分が浸水
- 強い水流の足を歩くことは危険

0.5m 未満の浸水

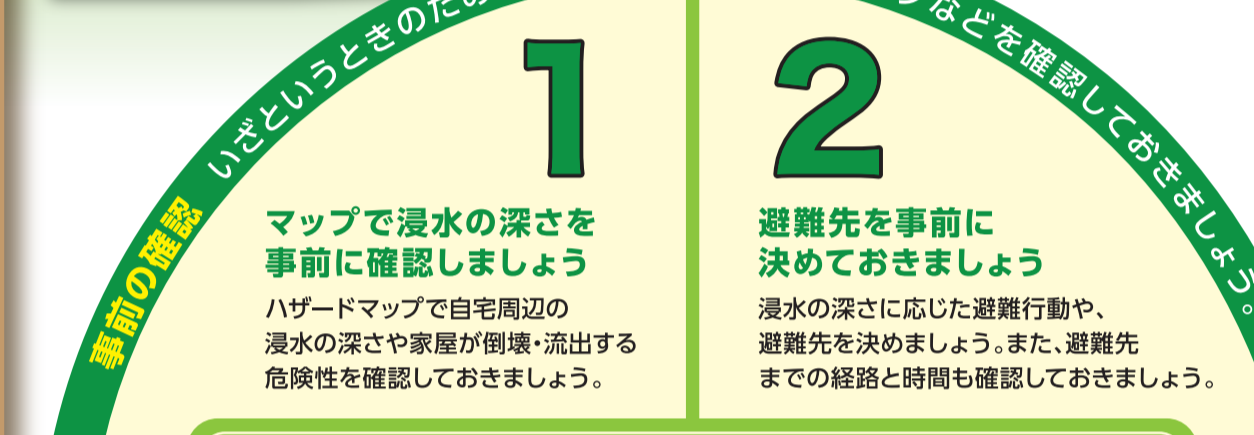
- 床下浸水
- 大人のひざ下程度
- 浸水の深さがひざ上になると、歩行は危険

「浸水ナビ」で詳しい浸水リスクを確認しましょう

地点別浸水シミュレーション検索システム「浸水ナビ」で、どの河川が氾濫した場合に浸水するか、どの河川の決壊後、どれくらいの時間で氾濫した水が到達するか、どれくらいの時間、浸水が継続するか、どのポイントの詳細な浸水リスクが確認できます。

自分が住んでいる地域に、どのような被害が想定されているか、事前に確認し、詳しくは、ホームページへ、適切な避難行動につなげましょう。

浸水ナビ 検索

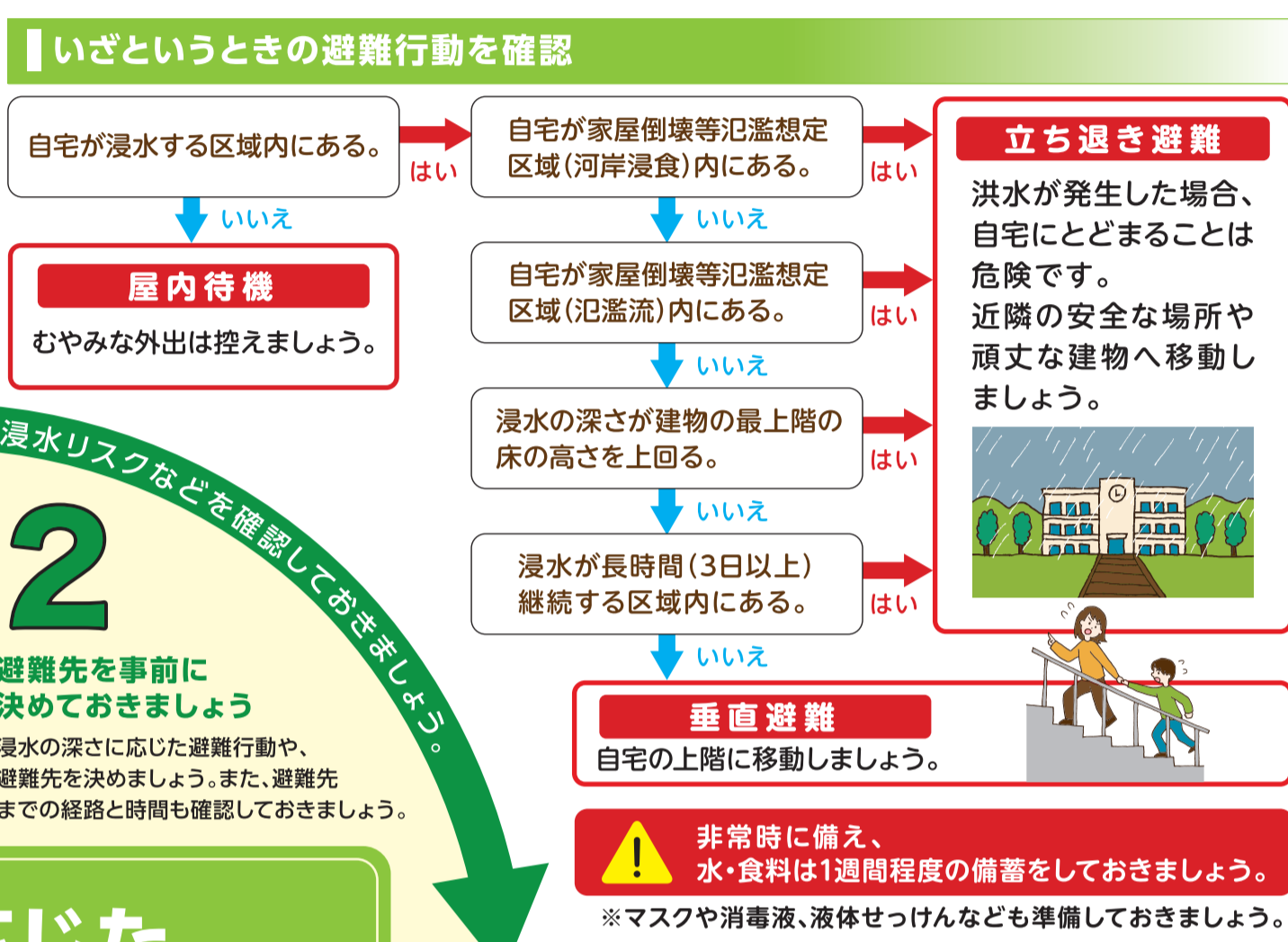
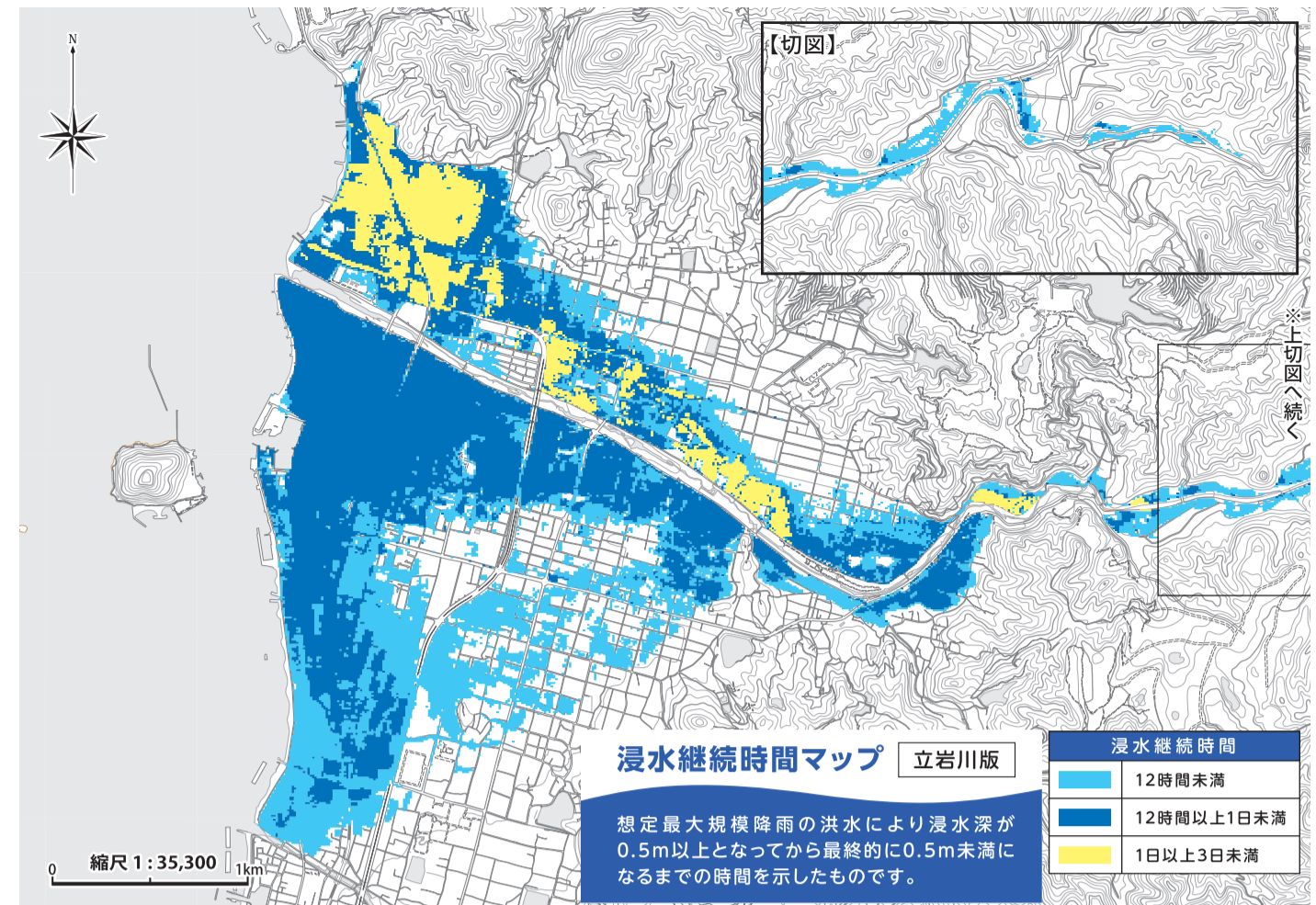


避難とは「難」を「避」けること

状況に応じた避難行動をしよう

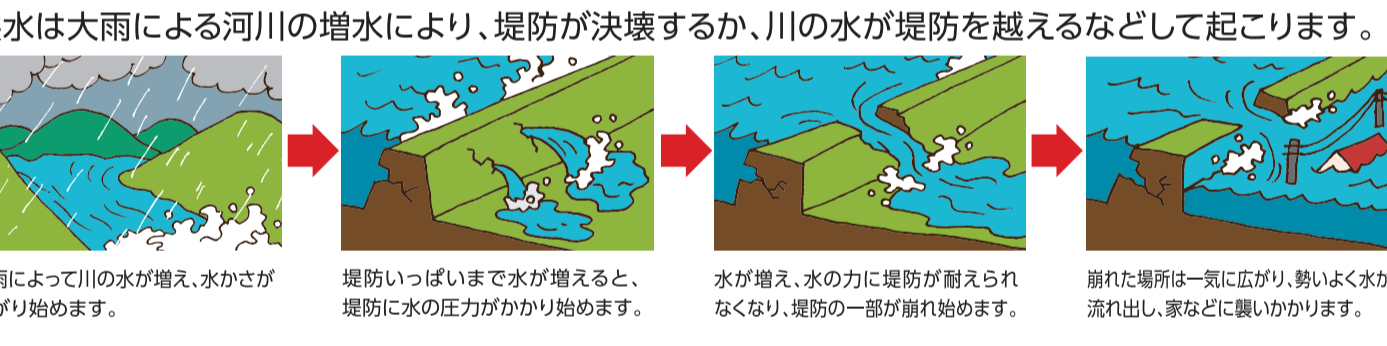
※安全な場所にいる人で避難場所に行く必要はありません。

浸水の継続時間を確認



洪水から身を守る

洪水発生メカニズム



都市型水害について知る

大規模な洪水以外にも、都市部は舗装された道路や宅地が多く、降った雨は地中に浸透しにくいので、川や水路、下水道に一気に集まります。そのため、次のような危険がありますので注意しましょう。

低地の冠水 ●低地や道路のアンダーパスでは冠水が起こり、車が立ち止まり生じ浸す危険があるため、通らないでください。

地下への冠水 ●地下が浸水すると...
 ●水圧でドアが開かない ●一気に水が流れ込む ●外の様子が見えなくなるなど、命に関わる危険があるため、早急の避難が必要です。

中小河川の増水氾濫 ●都市部の中小河川は、急に増水し、流れが速くなり、氾濫するおそれがあります。●買って転送しないよう、大雨の時は近づかないでください。

過去の浸水 ●過去に浸水があった所は、大雨の時、再び浸水するおそれがあります。事前に確認し、避難する際はこのような所は避けましょう。●過去の浸水(浸水実績)については、松山市のホームページを確認できます。

雨の強さと降り方、災害発生の目安

1時間雨量(mm)	10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上~
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る(ゴゴと降り続く)	息が詰るような圧迫感がある
人への影響	地面からの跳ね返りで足元が濡れる	命をさしていても濡れる	命は全く立たなくなる		
屋内(木造住宅を想定)	雨の音で話し声がよく聞かれない		寝ている人の半数くらいが耳が痛くなる		
屋外の様子	地面一面に水たまりができる	道路が川のようになる	水がしきであたり一面が白くなり、視界が悪くなる		
車の運転	ワイパーを速くしても見えない	高速走行時、車道と路肩の間に水溜りが発生し、ブレーキがきかなくなる	車の運転は危険		
災害発生状況	この程度でも、長く降り続けるとは注意が必要。	積水や下水道、小さな川があふれ、小規模のげきが発生する。	山崩れ、げき崩れが起きやすくなり、土砂災害警戒区域等では避難の準備が必要。都市部では下水道が溢れ、雨水があふれる。	都市部では地下や地下下水道に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土砂災害が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害が発生するおそれ強く、避難の準備が必要。

防災気象情報の種類と内容を知る

災害発生の危険性を5段階でお知らせします

災害発生のおそれが高まった場合、市や気象庁などから様々な情報が発表されます。これらの情報に注意し、段階に合わせた適切な行動をとりましょう。

警戒レベル	市民の皆さんがとるべき行動	避難情報等	警戒レベル相当情報
警戒レベル5 命の危険 直ちに安全確保	災害が発生・切迫している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	緊急安全確保(松山市が発令)	氾濫発生情報 大雨特別警報 など

(警戒レベル4までに必ず避難)

警戒レベル4 危険な場所から全員避難	速やかに避難行動をとりましょう。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近隣の安全な場所への避難や市内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示(松山市が発令)	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 など
警戒レベル3 危険な場所から高齢者等は避難	ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児などは、避難に時間がかかる人とその支援者は避難行動をとりましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難(松山市が発令)	氾濫警戒情報 大雨警報 など
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	大雨注意報 など(気象庁が発令)	必ずしも、この順番で発表されるものではありません。必ずしも発表されるものではないことに注意してください。
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報(気象庁が発令)	

気象庁からの注意報・警報

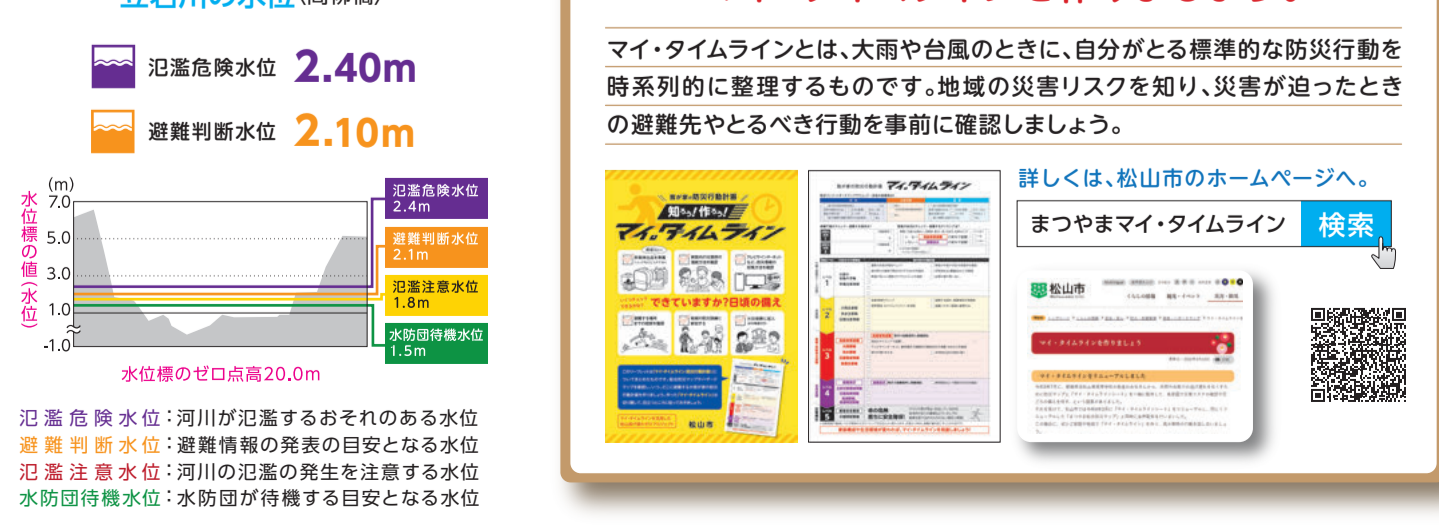
大雨・洪水注意報 **大雨・洪水警報** **大雨特別警報**

大雨により災害が発生するおそれがあるときに発表されます。

大雨により重大な災害が発生するおそれがあるときに発表されます。

台風や集中豪雨により数日にわたる大雨となる大雨が予想される場合発表されます。すでに災害が発生している可能性が高く、大雨特別警報発表までに避難することが重要です。

危険水位について



状況に応じた避難行動をとる

いつ避難するかを決める!

屋内待機 垂直避難 立ち退き避難

避難場所は、小中学校・公民館だけではなく、安全な親戚・知人宅に避難することも考えましょう。

大雨・洪水時の避難のポイント

ひざ上まで水につかると歩かなくなります 冠水している道路を渡るのは危険です。歩ける水の深さは50cm程度が限界です。

ロープにつながって 子どもなどは大人とロープを体につなぎましょう。

足元に注意 水中の障害物に注意し、長い棒を杖代わりにして確認しましょう。道路はできるだけ真ん中を歩きましょう。

車は使わず、歩いて避難 あらかじめ決めておいた、よく知っている避難コースを通りましょう。

子どもやお年寄りを安全に 小さな子どもや足の不自由なお年寄りは背負います。ペーパースを活用する方法もあります。

危険なところは避ける 狭い道、げき川の上そばは避けましょう。崖下でたがった電線には近づかないようにしましょう。

その他、避難のときに注意すべきこと

自宅に、避難先・安全状況のメモを残す。

避難するときの服装

- ヘルメットや防災ずきんをかぶる。
- 質でも長く、臭いスポンを着用する。
- 長靴は水が入ると動きづらくなるので避ける。水中でも履けにくい歩きやすい靴がよい。
- 軍手、手袋を装着する。
- 非常持ち出し品はリュックに入れて背負う。

特に注意が必要なところ

地下空間 ●上の様子が見えないため、逃げ遅れる可能性があります。●地上が浸水すると一気に水が流れ込んできます。●流れ落ちるで階段は上りたがらないです。●水が20cm程度たまると、流れ込む水圧でドアが開かなくなります。

アンダーパス(地下道) ●鉄道や道路の下をくぐる場所は路面が低く水がたまりやすいので、大雨の際は通らないようにしましょう。●60cm程度の水位で車のドアは開かなくなるので、車が止まった直ちに脱出しましょう。●車が止まった際は、シートレールをニュートラフにして、車体を手で支えて逃げてください。

車(運転中) ●水深30cmを超えると、多くの車エンジンが停止します。浸水などの危険を感じたら車を高台に移動させましょう。●浸水してエンジンが止まった車は、むやみにエンジンをかけると危険です。●車を脱出する際は、シートレールをニュートラフにして、車体を手で支えて逃げてください。

河原 ●周りが急に陥くたたり、雷が聞こえたりしてきたら、急激に増水するおそれがある。すぐに川から離れましょう。●自分がいる場所が崩れていても、上流で雨が降っているときでも急激に増水するおそれがあるので気象情報にさらに確認しましょう。

避難情報などの伝達、入手方法

松山市では、様々な方法で避難情報などを発信しています。様々な情報の入手方法を知れば、いざというときに役立つでしょう。日ごろから確認して、自らの命は自らが守りましょう。

1 防災行政無線 市内284ヶ所の屋外スピーカーから災害・気象情報をお知らせします。放送後48時間以内は、テレホンサービスで放送内容を確認できます。

2 広報車 市有車両や消防車両によるマイク放送をします。

3 テレビ・ラジオ

- 避難情報や避難所開設情報は、テレビのデータ放送でも確認できます。
- 手回し式のラジオがあれば安心です。
- 愛媛CATVでは、「お知らせチャンネル121」で、市からの情報を自動で繰り返し読み上げます。

4 メール配信

- まつやま防災メール(事前登録が必要)
- 緊急速報メール・エリアメール
- 松山県防災メール(事前登録が必要)

5 スマホアプリ

- Yahoo!防災速報
- ひめシェルター

スマートフォンなどをお持ちの方は、アプリで情報を確認することができます。ひめシェルターでは、避難所までの経路を事前に確認し、登録できます。

6 SNS・ホームページ

- 松山市ホームページ
- 松山市公式LINE
- 松山市防災情報Facebook
- 松山市防災情報Twitter

川の水位情報

河川に設置されている通常水位計や危険警報型水位計で観測した最新の河川の水位情報が、パソコンやスマートフォンで確認できます。また、河川監視カメラの映像も確認できます。非常時の避難行動などに活用してください。

川の水位情報 検索

大雨警報(浸水害)の危険度分布 **洪水警報の危険度分布**

危険度分布の色が持つ意味と行動などの例

注意	警戒	危険	災害切迫
今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意する。(警戒レベル2相当)	安全確保行動をとる準備をし、早めの行動をとる。(警戒レベル3相当)	河川水位の急激な上昇、崖や土砂災害の発生に注意し、速やかに立ち退き避難や自主避難行動をとる。(警戒レベル4相当)	重大な災害が発生している可能性がある。速やかな避難行動をとる。(警戒レベル5相当)